

部会ニュース「6-67」

■訪問介護事業所、22年度は4割超赤字 福祉医療機構

- ・福祉医療機構は、訪問介護事業所 1,901 カ所の 42.8%が 2022 年度に経常損益ベースで赤字だったとする調査結果（リサーチレポート）をまとめた。本業の利益率（サービス活動増減差額比率）は平均プラス 5.8%で、前年度（1,846 事業所）から 1.5 ポイント縮小した。
- ・赤字事業所の割合は、前年度の 40.1%から 2.7 ポイント拡大した。24 年度の介護報酬改定では訪問介護の基本報酬が引き下げられたため、同レポートでは、利益がもともと少ない事業所の経営への打撃が懸念されるとしている。
- ・調査は福祉医療機構の融資先の訪問介護事業所が対象。訪問介護事業所の 22 年度の経営状況は機構が 1 月末に「経営分析参考指標」として公表していたが、今回のリサーチレポートでは、黒字と赤字事業所を比較するなど詳しい分析結果をまとめた。
- ・それによると、本業の利益率に当たる「サービス活動増減差額比率」は、22 年度は 1 事業所当たりプラス 5.8%で、前年度のプラス 7.3%から 1.5 ポイント縮小した。サービス活動に伴う 1 事業所当たりの収益は 103.6 万円増えたが、サービス活動に伴う費用の伸びが 157.6 万円とこれを上回った。
- ・費用に関しては、給食費や水道光熱費などの「経費率」が 16.8%で 1.3 ポイント上昇した。これに対し人件費率は 74.2%で、前年度（74.3%）の水準を維持した。
- ・また、黒字と赤字事業所ごとの分析結果によると、本業の利益率は黒字の事業所（1,087 カ所）がプラス 14.4%だったのに対し、赤字事業所（814 カ所）ではマイナス 15.9%と隔たりが大きかった。
- ・1 事業所当たりのサービス活動収益は、黒字事業所が 5,189.6 万円、赤字事業所が 2,712.4 万円と倍近い差があった。一方サービス活動費は黒字事業所が 4,443.7 万円、赤字事業所が 3,144.7 万円だった。
- ・1 カ月当たりのサービス提供回数は黒字事業所が 1,090.8 回、赤字事業所が 529.1 回。スタッフ 1 人当たりの収益には 160.9 万円の差があり、同レポートでは、提供回数の差が経営状況の違いにつながったとの見解を示した。

※詳細は下記の資料をご参照ください。

2022 年度 訪問介護の経営状況について（WAM）

https://www.wam.go.jp/hp/wp-content/uploads/240809_No002.pdf